

松も明けた頃になって、録画していた「俳句」をチェックしてみた。

三三俳句。その回は井上弘美さんが担当で、

「今回のお題は『左義長』です」と言っている。

「左義長？」なんじゃこれは！ 私は知らなかった。

「新年の火祭り行事で、新年の季語にもなっている」そうだ。

サギチャウ、と音で聞くと、鷺鳥と繋がりがありそうだと思いき歳時記をめくってみた。

夏の季語？ お呼びでない！

解説では火祭り行事という事で、とんど焼きとか、ドンと焼き、とか言われる行事のことだという。それなら私も知っている。だがニュアンスが全く違うではないか！

百科事典で調べてみた。

「小正月の火祭りを言う。平安時代の記録などには〈三毬杖〉（サギチャウ）と記されている。かつては宮中や公家での正月行事だった。民間では主に、とんど焼き、ドンと焼き、サイトウ、サンクロウヤキ、ホチョジ、ホッケンギョウなどの名で現在も行われている所もある云々」とあった。歴史は古いのだ。

更に民間の行事としては、正月の松飾を各所から集め、一定の場所で焼くのが普通だが、なかには中心に丸太を立て藁で覆って小屋を作り子供たちが前夜からそこに籠って、米や餅を共食し、最後にこれを焼き払う例もある。この火に身体をあてると、若返るとか、餅や団子を焼いて食べると若返るとか、残り灰を厩に入れると、家畜が丈夫になるなどと言って、この火を神聖視する所もあるそうだ。

我が家でも毎年どんと焼きをする。

一月十五日、早朝からバーベキューのコンロを出し、その上に、去年、祭壇に祭ったお札、お正月に飾った松飾り、書き物の反故、等々、仏壇の奥に取っておいた物まで全部引っ張り出して燃やす。

それで、ご利益はあったのかって？ 寝込むような病気にはなっていないし、辛いことも、苦しいことも、あまり思い浮かばないから効き目はあったのだろう。

それにしてもこの呼び名「左義長」より「どんと焼」の方が、威勢が良くて悪いことが天に退散して行きそうだ。